

消えゆく和の建築を、 現代に住み継ぐ

伝統と現代をつなぐ日本建築の再生

水戸工業高校 建築科3年 小松 諒平

動機

- ・今の日本はグローバル化による影響で、画一的なデザインの建物が増え、和風建築が急速に姿を消している。
 - ・日本は災害が多い国であり、安全性を重視する社会の中で、日本建築は災害に弱いというイメージから敬遠されるようになった。
- ↓
- ・現代の生活様式に合わせた再生モデルを提案することで、再生していきたい

目的

- ・現在残っている日本建築の街並みに合う外観で、それでいて現在の生活様式に合わせた内装の家を設計すること



仮説

強力なブランド化

- ・日本の伝統的な街並みで観光客数の増加が期待される

地域活性化

- ・定住・移住の促進などの人口面の活性化で地域の活性化に貢献します

防災・防犯意識の向上

- ・『住民の目』が自然な見守りとなり、街の防犯性を高めます。

研究計画

- 4月 テーマ検討
- 4月～8月 設計
- 9月～12月 作品制作
- 12月～1月 発表準備
- 1月 発表



研究方法

- ・AIを使って、基本となる構想を考え、そのイメージをもとに具体的かつ現代的な設計を行う。
- ・jw-CADを用いて設計
- ・レーザー加工を用いた模型製作



画像生成ソフトによるデザイン



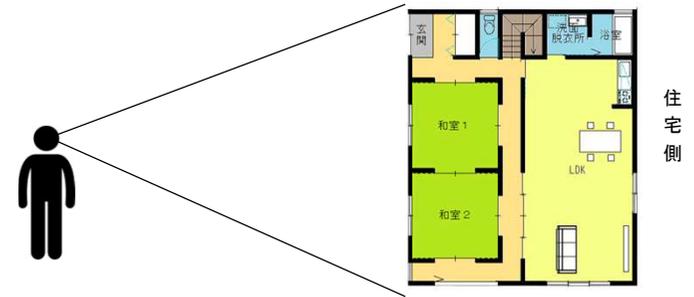
一階平面図



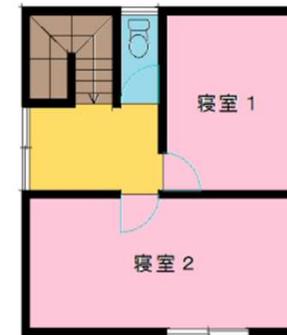
一階平面図

和室に目隠しの役割

・西側に和室を配置することで、外から家の中を見たときに、和室が目隠しとなって奥の洋室が見えないように配置しました。



二階平面図



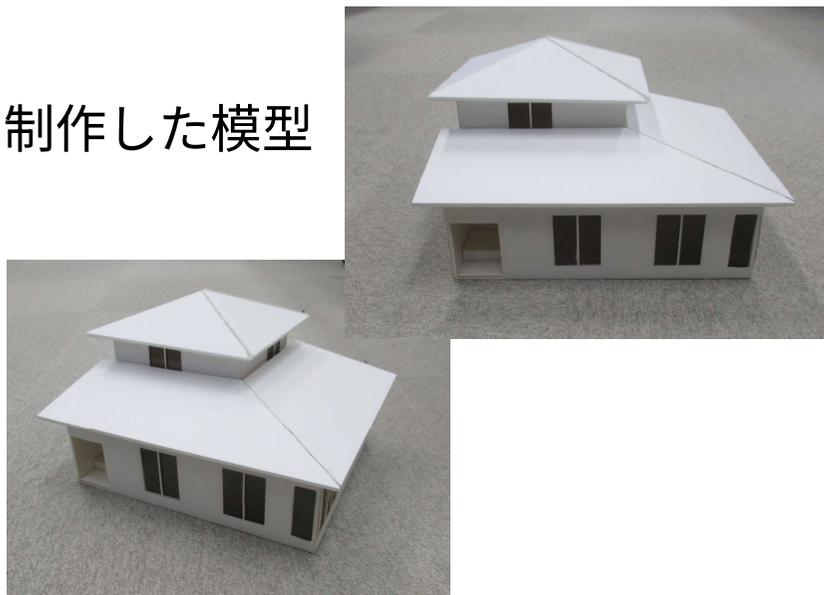
立面図



他のデザイン



制作した模型



まとめ

- ・外装を瓦屋根や土壁風の「和」のテイストにすることで、減りつつある日本文化を感じさせる街並みを作ることができる。
- ・単に建物を設計するだけでなく、観光、移住促進、防犯といった地域全体の課題に対し、建築デザインがどのように貢献できるかという多角的な解決策を考える力が身に付きました。